

(1) 教材 一つの花

(2) 教材分析

①この作品は、どんな書き方がされているか。

この作品では、登場人物の行動や様子が静かに淡々と描かれています。作品を読む私たちは、ゆみ子やお父さんやお母さんから少しはなれて、演劇を見ているかのような気持ちになってきます。時々使われている会話も、ゆみ子とお父さん、お父さんとお母さんが話をするというよりは、それぞれ独り言のような形式で書かれています。ですから、会話の部分でさえも登場人物になりきって読むという感じではありません。しかし、読み手はゆみ子やお父さんやお母さんの声が聞こえるところまでひきよせられてしまいます。

厳しい言葉のやりとりもなく、日常の事実を事実として淡々と語っているにもかかわらず、読み手の心に強く迫ってくるものがあるのは、独り言のような会話の巧みな使い方によるものではないかと思われまます。

この作品を読むとき、登場人物になりきるのではなく語り手を意識し、登場人物の寄り添ったり、離れたたりしながら読みたいと思います。ですから、この作品で、登場人物の気持ちを問う発問は、さげたいと思います。『お父さんは、・・・をどうおもいましたか?』というような問いには、応えにくい書き方がされています。聞かれた子ども達は、困ってしまうでしょう。

次のような文が、あります。

お母さんが、ゆみ子をいっしょうけんめあやしているうちに、お父さんが、  
ぷいといなくなっていました。

この場面は、お父さんが大急ぎで、コスモスの咲いている場所へ行く場面です。決してお父さんは怒って不機嫌になったりしていません。お母さんやゆみ子には、お父さんの行動は理解できませんが、読み手の私たちには、わかります。周囲の者には『ぷい』と感じられるほど、お父さんは急いでいます。せつぱつまっています。母と子の様子を見ているお父さんは、必死で何かを探しています。そんな、緊迫した場面です。

作品を読むとき、書きぶりを意識することはとても大事です。読み進めながら、作者の文体を感じ取っていきたいと思います。この作品は、文芸研の提唱する『三人称全知の視点』です。

## ②表現上の工夫や文体について

- \*登場人物の行動や様子を淡々と語る中に、独り言のような会話を使い読み手を作品の世界から離さない巧みな表現である。
- \*文末は丁寧体で表現されている。断定の助動詞「だ」の丁寧体である「です」を使うことによって、かなり強い言い切りの感じを読み手に与える。
- \*作品の大事なところに《・・・・・・・・のでした。》という形式名詞を用いて、叙述を強めている。
- \*《・・・・・・・・でしょうか。》という言い方で、語り手が読み手に問いかけることによって、作品の中へ読み手を引き入れている。
- \*格助詞「が」と係助詞「は」が、巧みに使い分けられている。「は」の場合は、『ゆみ子は?』、『お母さんは?』というように『?』をつけるつもりで読みます。丁寧な表現で淡々と書かれていますが、文章表現の工夫で読み手を物語から離しません。

## (3) 教材解釈

### ①前話 戦争のはげしかったころの生活

「・・・・・・・・そんな物は、どこへ行ってもありませんでした。」「・・・・・・・・しかありませんでした。」と、二つの文章を対応させ、当時の厳しい食料不足を説明しています。また、「食べる物といえば、・・・・・・・・しかありませんでした。」という表現は、さらに強く読み手に食べ物の不足を感じさせます。そして、食べ物でさえ不足しているのですから、日常生活に必要な物もなかったと考えることはそう難しいことではないでしょう。

毎日敵の飛行機が飛んできて、ばくだんを落としていきました。町は次々にやかれて、はいになっていきました。」という二つの文も大事に読みたいものです。

飛行機からの爆撃になすすべもなく、ただ逃げ惑う様子、防空壕の闇の中でふるえながら、飛行機が去って行くのを待っている様子が感じられます。また、**町が灰になってしまっただくさんの爆弾が落とされた**ということも読み落としてはいけません。

家も木も花もポストも橋も、町にあるすべての物が灰になってしまう。静かにさりげなく書かれている文ですが、その表現しているものの大きさをしっかり読みたいと思うのです。

### ②事件の始まり 「ひとつだけちょうだい。」最初に覚えたゆみ子

「ゆみ子はいつもおなかをすかしていたのでしょうか。」と、読み手に問いかけています。なぜ、作者は「・・・・・・・・いたのでしょうか。」と書かなかったのか考えてみました。『ごはんのときでも、おやつのときでも、』ということは、別な時でも、「もっと、もっと。」と言って、いくらでもほしがります。お母さんは、そんなゆみ子に、自分

の分から一つわけてやります。当時の食料事情から考えて、はらいっぱい食べていることはありません。しかし、ゆみ子は、赤ちゃんです。お母さんの分ももらって、それでも、おなかをすかせていたのでしょうか。**ゆみ子の「もっと、もっと」は、食べ物ではないものをほしがっていたのではないか**とも思うのです。

お父さんは、深いため息をついて、ゆみ子の成長を心配しています。満足するまで食べさせてやれないことと同時に、成長に必要な様々な物や経験を与えてやれないことを心配しています。

**お母さんの口癖を覚えてしまったゆみ子**が、「一つだけちょうだい」と言うと、お父さんは、ますますゆみ子の行く末を心配します。今のゆみ子にとって、何が必要なのか、何を与えてやれるのかと考えます。そして、何も与えてやれないことへのいら立ちとくやしさを感じます。ただ一つできること、**高い高いをして、ゆみ子を喜ばせる**のでした。

### ③事件の展開 戦争に行くお父さん

町から遠く離れてひっそりとくらすお父さんも戦争に行かなければならなくなりました。あまり丈夫でないお父さんまで駆り出されるほど、状況は切羽詰っています。お母さんの持つカバンの中には、大事なお米で作ったおにぎりがはいています。お母さんは、今が、大事なお米を使う時だと思ったのです。お父さんに食べさせたいという強い思いが、感じ取れます。

お母さんは、おにぎりをカバンの中に入れてありました。ゆみ子は、「ちゃあんと」知っています。ゆみ子は、ずいぶん大きくなっています。わたいの防空頭巾をかぶれるし、**「おじぎり一つだけちょうだい。」**と文で話ができます。

お母さんは、遠い駅まで行く間にゆみ子がぐずって泣き出すのを予想しています。思った通り、ゆみ子は、「一つだけちょうだい」と言って全部食べてしまいます。お母さんは、ゆみ子を泣かせたくなかったのです・

**最後に見た姿は、長い間記憶に残ります。**お父さんは、戦争に行くのです。三人で過ごす最後の時間になるかもしれません。駅にはたくさんの人がいて、あちらこちらで万歳の声が聞こえ、勇ましい軍歌が響いていました。

### ④クライマックス とうとう泣き出したゆみ子

お父さんに抱かれて機嫌のよかったゆみ子ですが、**汽車が入って来る時になって、**お父さんから離れます。その時、「一つだけちょうだい」が、始まったのです。「いよいよ汽車が入ってくるというときになって」、周囲の状況は、一変します。けたたましい汽車の音、万歳の声が大きくなる、叫び声や鳴き声があちらこちらで大きくなる。そして、**ゆみ子は、父から母へ**居場所を変えたのです。

**ゆみ子は、もっとお父さんに抱いていてほしかったのです。この時の「一つだけち**

**ようだい」は、おにぎりではありません。もっと、もう少し、お父さんに抱いていてほしいというゆみ子の叫びです。**お父さんは、そんなゆみ子の心を知っていたのかも知れません。でも、もう抱いてられないのです。お父さんは、「みんなおやりよ。母さん。おにぎりを……」と言います。お母さんは一生懸命あやします。「一つだけ……」と言えば、なんでもしてもらえと思っているゆみ子は、「一つだけ、一つだけ……」と言って叫びます。「もうちょっと、もう少しだっこして」というゆみ子の叫びです。

ずっとだいていたいけどできないお父さんは、必死でゆみ子と自分をつなぐものを探します。そして、コスモスの花を見つけたのです。もう時間がありません。「ぶいっ」といなくなったお父さんは、1輪のコスモスを持ってきます。そして、ゆみ子にわたすのです。1輪のコスモスは、お父さんそのものだったのです。

#### ⑤事件の結末 汽車に乗るお父さん

プラットホームは、汽車の音や人間の声で騒々しくなっています。でも、**3人のまわりだけは、静かに最後の時間**をむかえています。お父さんは、ゆみ子に「生きてくれ」といったのです。そして、ゆみ子が強く生きることは、お父さん自身が生きることでもあったのです。

ゆみ子は、元気よく応えてくれました。お父さんは、ゆみ子の様子に生きる強さを見ました。もう、何も言うことはなかったのでしょうか。ゆみ子の持つコスモスの花に自分の姿を見ながら、お父さんは、去って行きます。

**1つの花を持ったゆみ子をだいて、じっと遠ざかる汽車のテールランプを見つめるお母さんの姿が、映画のラストシーンのように頭に浮かんできます。**

#### ⑥後話 コスモスのトンネル

**ゆみ子とお母さんは、力強く生きています。**お母さんは、ゆみ子にお父さんの話をするのでしょ。お母さんは、家をコスモスの花でいっぱいにするのでお父さんを感じ取っていたのでしょ。

コスモスの花でいっぱいの家から「まるでなにかお話をしているかのように」ミシンの音が聞こえてきます。「それはあのお母さんでしょうか。」という問いかけは、このお母さんだけではないんですよと、読み手に語りかけてくるようです。ここで、戦争の非情さ悲惨さ、それでも、人間は生き抜いていくという強さを一般化しています。

「今日は日曜日、ゆみ子が小さなお母さんになって、お昼を作る日です。」、ゆみ子のたくましさと日曜日も休まずミシンをふんできたお母さんの姿を思います。

(4) 主題

一緒に暮らしたいというゆみ子やお母さんの願いや、一つの花しか残せなかったお父さんの心情が描かれている。そして、成長したゆみ子の姿を通して、人間の命の大切さ、そして、強さを描いている。

(5) 思想

- ①人間の言語と認識までもゆがめてしまう戦争に対する怒り、仲よくひっそりとくらす家族の愛情を踏みにじる戦争に対する怒りが描かれている
- ②困難な状況の中でも、生き抜いていく人間の強さを描いている。

(6) 指導計画

①指導目標

- \*文学作品を視点を決めて読めるようにする。
- \*文末や助詞に着目して読めるようにする。
- \*表現に即して読み、自分の考えと友だちの考えを比べられるようにする。

② 指導計画

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| 第1次 | 全文を通して読む                           |
|     | * 作品の特徴をつかむ。(1)                    |
|     | * 6つの場面に分け感想を書く。(1)                |
|     | 前話 始まり 展開 クライマックス 結末 後話            |
| 第2次 | 場面ごとに読む                            |
|     | * まだ戦争のはげしかったころの人々の生活 (1)          |
|     | * ゆみ子を高い高いする父 (1)                  |
|     | * 戦争に行くお父さん (1)                    |
|     | * プラットホームの3人 (1)                   |
|     | * とうとう泣き出したゆみ子 (1)                 |
|     | * 遠ざかる汽車 (1)                       |
|     | * コスモスのトンネル (1)                    |
| 第3次 | 全体を通して読む (1)                       |
|     | * ゆみ子の求めたものについて考える (1)             |
|     | * 「一輪のコスモス」と「コスモスのトンネル」を対比して読む。(1) |
| 第4次 | 感想を書く (1)                          |

(7) 本時の指導計画

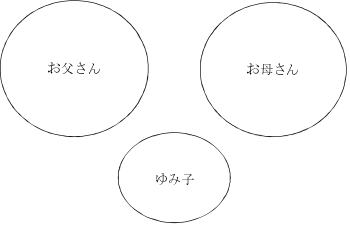
①授業の場面

- \*遠くから汽車の音が聞こえてくる。蒸気機関車である。
- \*お父さんに抱かれていたゆみ子は、お母さんに抱かれる。
- \*その時、ゆみ子の「一つだけちょうだい」が、始まる。
- \*ゆみ子をあやす母、一輪の」コスモスをとってきた父、3人の様子が描かれる。

②読み取ること

- \*もっと抱いていてと父に訴えるゆみ子の様子を読む。
- \*切羽詰った状況の中で一輪のコスモスを持ってきた父の様子を読む。
- \*ゆみ子を必死であやす母の様子を読む。

③授業の展開

| 教師のすること  | 子どものすること                     | 留意点                           |
|--|------------------------------|-------------------------------|
| (1) 駅につくまでの、三人のことを思い出させる   | *前時の学習を教科書、ノートから確かめて発表する。    | *一問一答でもいいので、たくさんの子どもにこたえてもらう。 |
| (2) 今日、勉強するところを読んでもらう。   | *音読を指名する。                    | *一緒に黙読する。                     |
| (3) 汽車の音が聞こえてきたところを探させる。   | *再度、黙読する。                    | *教科書に線を引かせる。                  |
| (4) 三人の位置関係を図で示す。<br> | *汽車が入って来る前と入って来た時の三人の状態を考える。 |                               |
| (5) 三人の位置が変わったのはいつか、考えさせる。   | *黒板のカードを操作しながら、位置関係の変化を確かめる。 | *ノートに書き、発表する。                 |

|                                    |  |  |
|------------------------------------|--|--|
| <p>(6) 本文をもう一度読み、3人の気持ちを考えさせる。</p> | <p>*「一つだけ」と叫ぶゆみ子は、何を求めているのか考えてノートに書く。</p> <p>*それぞれの気持ちを発表する。</p> | <p>*ゆみ子が父から離れたとき、「一つだけ・・・」が始まっていることに気付かせる。</p> |
|------------------------------------|--|--|

(8) 授業記録

- T いままで一つの花を勉強してきて、確かめてきたことを発表してもらいます。どんなことがわかってきたやろか。
- \*一つの花の授業では、初めに前の授業で確かめたことを短く話をさせた。
- C 1 ゆみ子はどないして成長してきたか。
- T ゆみ子はどないして成長してきたか。前の勉強ではゆみ子の成長がよくわかるようなところを見つけたね。教科書、ノートを見ていいよ。
- \*今は、子どもの発言を繰り返して確認している。自分がいうことばかりに意識がいき、友達の話を聞かない子どもが多いことと、全体に確認するために繰り返している。
- C 2 おにぎりっていうのうね、おじぎりっておぼえた。
- C 3 ゆみ子はおにぎりが入っているのをちゃあんとしっていたというところで、・・・。
- T そこで、どんなことがわかったの。
- C ゆみ子ね、ちゃあんとね。かばんかけたのうね。おにぎり入っているのをちゃあんと知っていた。
- \*まだ、話をまとめて発表できる子どもが少ない。思っていることをいいきれないことが多い。そんな時、他の子どもが先にしゃべりだしてしまう。「つけたし」という方法はとらず、教師が手助けしながら、その子が言いたいことをできるだけ取り出してやるようにしている。また、その子の発言を聞いてやれるようにしたいと思っている。
- C 4 頭には、お母さんの作ってくれたわた入れの防空ずきんをかぶっていました。
- T そこで、どんあことがわかったの？
- C 大きくなるとる。
- T だれが？

- C ゆみ子が。
- C 5 それからまもなくって書いてある。少し時間がたったんやなああって思う。
- T なるほど、時間がたったんやね。それからって、どんなことをしてからやった？  
\*数人いっせいに、『めちゃくちゃ高い高いした・・・』
- C 6 防空ずきんおかぶっていくというところで、大きくなったことがわかる。
- T 先生から聞きます。駅は三人にとってどんなところでしたか。
- C 7 おわかれのところ。  
\*よっちゃんが教室に入ってきて、前に座る。
- T おわかれの場所やったね。駅まで三人で行ったんやね。  
\*おとうさん、おかあさん、ゆみ子の三枚のカードを黒板にはる。  
(めずらしどー) 数人のつぶやき。  
\*カードは、時間の節約と黒板にスペースの確保を考えたが、かえってよくなかった。具体物は、子どもにとって強烈であるだけに、使う時はじゅうぶん注意する必要がある。  
\*子どもに操作させる予定だったが、省略。  
\*カードを操作しながら、駅までの三人の位置を確認する。  
記録は省略。
- T お別れの場所である駅へこのようにしてやってきました。今日は、駅についてかの様子を勉強するよ。  
\*指名読み、順番がきまっている。  
\*予定の範囲をこえて読んでしまう。  
\*場面わけがまちがっていたか……。子どもの意識は、ここで区切りになっています。だから、続けて読んでしまうのであろう。
- T じょうずに読めました。今日は、形式段落23までですね。今、読んでもらったところ、どんなことが書いてありましたか。短く言い換えてください。  
\*短く言い換えることを繰り返しさせている。
- C 8 とうとうゆみ子が泣き出したこと。
- C 9 車が入ってきたとき、ゆみ子がまた「一つだけちょうだい」って言い出したこと。
- C 10 お父さんは、プラットホームのはしっぽのほうのごみすてばのようなところにわすれられたようにさいていたコスモスの花を見つけたと書いてあるよって、一輪のコスモスの花のこと。
- T ちょっと先へいきすぎたね。23段落のところまでね。  
\*よっちゃん退場。
- C 1 ええ、もう食べちゃったんですのっていうところでね、お父さんとお母さんはびっくりしている。



- T     どんなことに。
- C 1    ええとね、おにぎりが入っとなのがね、わからなんだもんで、ええ、もう、たべちゃったんですのってびっくりしている。
- C11    お母さんがゆみ子をあやしていたこと。
- T     お母さんの顔つきわかる。  
       \*様子を聞きながら、人物の気持ちが子どもから聞けたら聞いてやるようにしている。今回は、ようすと気持ちが混乱し整理しきれなかった。
- T     どんな顔していますか。  
       \*数人いっせいに、

.....  
 .....

略

\*後の授業記録は、省略します。授業後の反省でも出てきますが、発問が子どもの実態とずれがありました。

(9) 授業後の話し合いから

①授業に関して

- \*子どもの読みは、一輪のコスモスに引っ張られて先へ先へと急ぐ。一輪のコスモスのイメージは、強烈である。この物語では、ここまで暗い場面の連続であり、読み手にとっては、早くコスモスの花がでてきてほしいと思うのかも知れません。
- \*場面わけのまちがいが、ありました。お父さんがコスモスをとってくる場面までをひとまとまりにした方が、子ども達の読みノイメージの連続を妨げない。いつも、できるかぎり、場面を大きくとって読もうとしているのであるが、場面の区切りをどうするかが、教師の力量の現れるところである。
- \*この授業は、状況を明らかなし場面の展開を抑えることにしぼった方がよかった。この授業の後、場面を広げて3人の気持ちを中心に話し合ったときは、ずいぶんたくさんのお話をしてくれた。
- \*様子を読むのに、汽車の音を使ったのはよかった。しかし、蒸気機関車の大きな音が、プラットホームの人々の会話の声を大きくし、ますます、騒然とした状況を作り出している状況は、イメージさせられなかった。授業の展開と発問を考えなければならない。『ところが、いよいよ汽車が入ってくるというときになって』という文章は、体験の少ない子ども達には難解な文章である。前後の読みとも合わせ、もっと丁寧授業しなければならない。

②子どものようすに関して

- \*発言する子どもが限られている。特に、女子はここまで1人しか発言していない。その子の個性を大事にしなければならないが、『私言う人』、『私聞く人』では、子ども達の成長を作り出すことにはならない。
- \*問題に対して、考え、討論することが弱い。自分の言いたいことなら場を考えずしゃべるが、課題についての意見や考えは話せない。
- \*学級作りと深く関わることであるが、聞く、話す、考えるの場面わけを明確にした授業作りが大事である。

③子どもが主体的になるということについて

- \*この授業記録に名前が出てくる子ども達は、自主的主体的に授業に参加し発言していた。全体の3割くらいです。主体的に参加するためには、言いたいことを作らなければなりません。そして、自由に発言できる場を作らなければなりません。

(10) もう一つの授業案 2012年6月 (案)

①授業の場面

いよいよ汽車が入って来る時のプラットホーム

②話し合うこと

いよいよ汽車がはいつてくるとき始まったゆみ子の『一つだけちょうだい』は、何を求めたのか。

③ 主発問は、『ゆみ子が求めたのは、おにぎりではない。』、○か×か。

ゆみ子が求めたものは何かを考えることで、様々な意見を出し合うことができる。

| 教師のすること                           | 子どものすること           | 留意点   |
|-----------------------------------|--------------------|---|
| ① 指名読み<br>P67の9行目から<br>P69の2行目まで  | *音読1名              | *読む子どもに合わせて、小さい声に出して一緒に読む。                    |
| ② ゆみ子が求めたのは、何か？                   | *黙読し、求めたものをノートに書く。 | *この場面は、父から母へゆみ子が、わたされている。父と母に抱かれていることを明らかにする。 |
| ③ 「一つだけちょうだい」と求めたのは、おにぎりである。○か×か。 | *ノートに○、×を書き、理由を書く。 | *その時、「一つだけちょうだい」が、始まる。                        |